

さっぽろセミ通信

No. 6 (2010年12月18日発行)

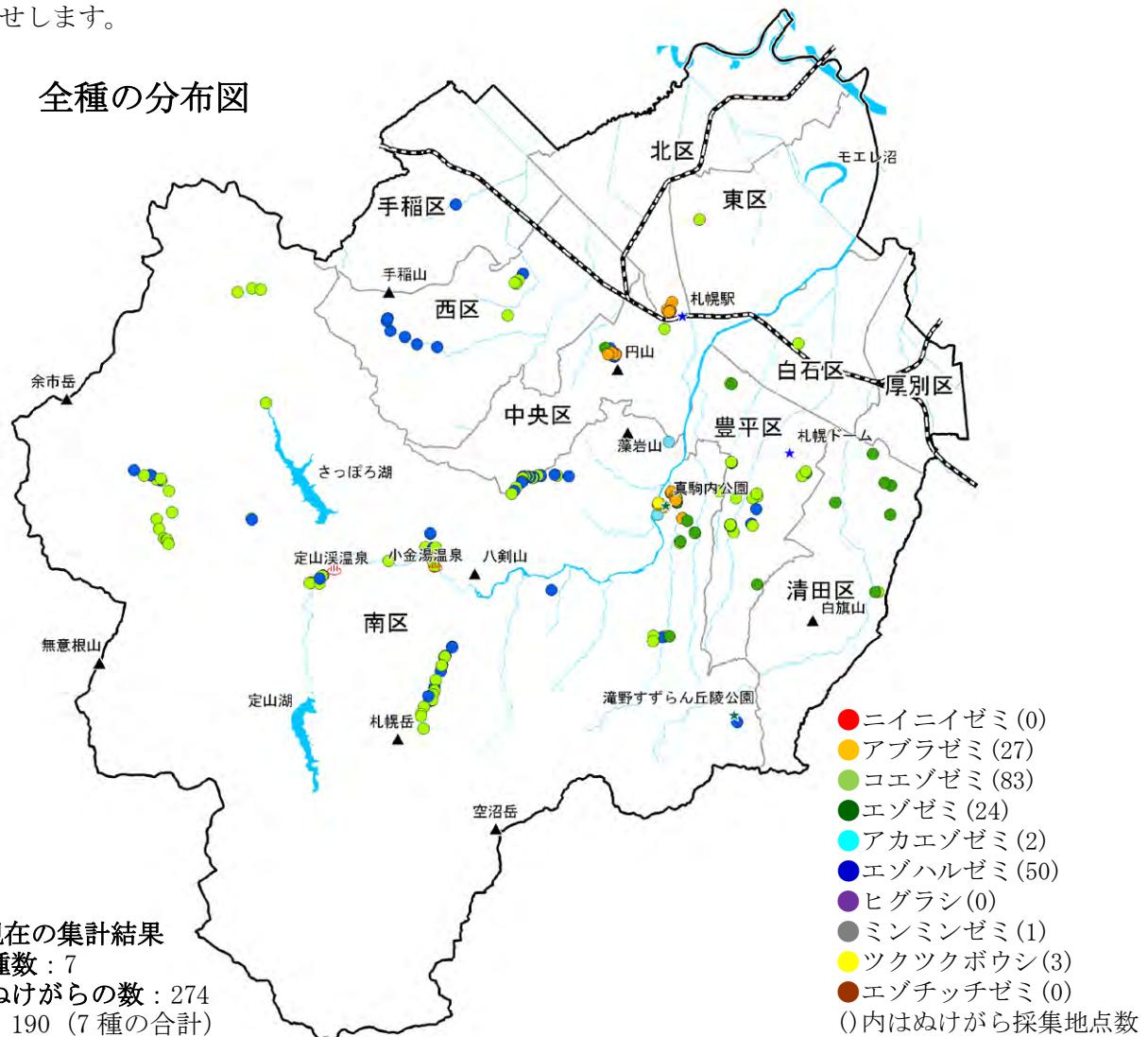
発行：札幌市博物館活動センター
編集：札幌昆虫自然史研究会

札幌市博物館活動センターでは市民の皆さんに参加していただき、2008年から「札幌市セミ調査」をスタートさせ、札幌のセミの生息状況を記録しています。この「さっぽろセミ通信」では調査の途中経過をお伝えしていきます。

「2010 札幌市セミ調査」の集計速報（2）

“ぬけがら”募集は10月31日で締め切り、登録・集計作業が終わりました。今年は札幌市内から274個体のセミの“ぬけがら”が集まりました。昨年と同じく7種の“ぬけがら”が見つかり、新たな場所からの報告も多数ありました。参加された皆さんのご協力に感謝します！本号では11月13日現在の集計結果をお知らせします。

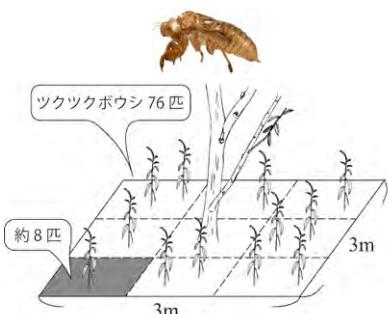
全種の分布図



豊平川のツクツクボウシ

前号（No.5）では豊平川のヤナギ林に生息するツクツクボウシの羽化の様子を紹介しました。そこではたくさんのセミの羽化が見られました。はたして何匹のセミが羽化したのでしょうか？簡単な調査をしてみました。

ここでは“ぬけがら”が草に付いているため、1本のヤナギの木を中心に3m × 3mの正方形の調査範囲を設定し、その中で草に付いていたり地面に落ちていたりする“ぬけがら”をすべて集めました。今年のセミが全部羽化し終わったと思われる8月下旬に調査を実施したところ、予想以上にたくさんの“ぬけがら”が見つかりました。ツクツクボウシが76匹（オス33匹、メス41匹、性別不明2匹）という結果でした（その他のセミは0匹）。調査範囲は9m²なので、1m²あたり8匹ほどが羽化したことになります。このデータだけでは林全体での発生量を推測することはできません。それでも、豊平川の河畔林や調査地に近い真駒内公園とその周辺で鳴いているツクツクボウシのほとんどがここの大ヤナギ林で生まれているのではないかと予想できるような結果でした。（TK）



アブラゼミ

寄せられたぬけがらの数：60 個体
採集地点数：27 地点

主に平地の公園などで発生します。場所によっては、今年は昨年に比べて発生個体数が少なかったようです（4ページのコラムを参照）。



コエゾゼミ

寄せられたぬけがらの数：110 個体
採集地点数：83 地点

森林に多いセミで、山地から多数見つかっています。平地の住宅地や市街地の公園からも見つかりました。



エゾゼミ

寄せられたぬけがらの数：30 個体
採集地点数：24 地点

平地から低山地にかけて見つかっています。札幌市東部に多いようです。



アカエゾゼミ

寄せられたぬけがらの数：3 個体
採集地点数：2 地点

昨年と同じ場所から見つかっています。エゾゼミの多い札幌市東部からはまだ見つかっていません。



エゾハルゼミ

寄せられたぬけがらの数：67 個体
採集地点数：50 地点

主な発生環境は森林で、山地に広く分布しますが、平地で鳴き声が聞かれることもありました。



ミンミンゼミ

寄せられたぬけがらの数：1 個体
採集地点数：1 地点

今年も定山渓温泉から“ぬけがら”が見つかりました。鳴き声は定山渓温泉のほか定山渓白井川や小樽内川、北海道大学でも聞かれました。



ツクツクボウシ

寄せられたぬけがらの数：3 個体
採集地点数：3 地点

昨年、“ぬけがら”が見つかった場所の周辺でも見つかりました。真駒内公園とその周辺で鳴き声がよく聞かれました。



2010 年のセミの発生量

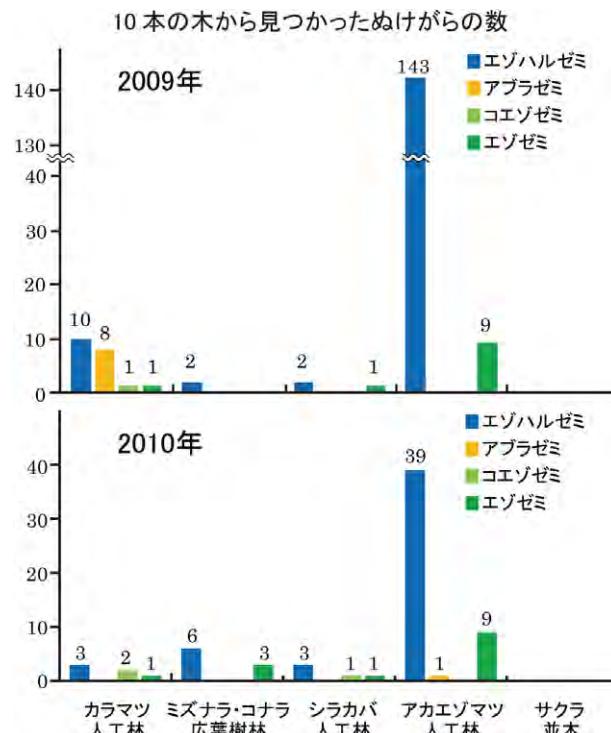
昨年はエゾハルゼミやアブラゼミがたくさん発生していましたが、今年は少なかったと感じませんでしたか？同じ場所で、その年に見つかった“ぬけがら”的数を比べてみると、今年は昨年に比べて発生量が少なかったのかどうかがわかります。南区の真駒内公園での一例を紹介します。

2009 年に真駒内公園でセミの発生量を調べてみました（さっぽろセミ通信 No.3 を参照）、今年も公園内の同じ場所で調べてみました。5 か所それぞれで 2009 年に調べたのと同じ木（10 本）を調べ、木の根元と樹上にある“ぬけがら”をすべて集めました。（調査は 6 月、7 月、8 月に 1 回ずつ実施）。

2009 年と 2010 年の調査結果のグラフを右に並べてみました。エゾハルゼミはアカエゾマツ人工林で最も多く発生していましたが、今年は昨年の 3 分の 1 以下の発生量でした。また、昨年はアブラゼミがカラマツ人工林で見つかっていましたが、今年は 1 匹も見つかりませんでした。一方、広葉樹林ではエゾハルゼミとエゾゼミが昨年より多く発生していました。

全体的には発生量は減少していましたが、林の環境やセミの種類によって発生量の変化の仕方は違うようです。大阪市内のある公園での長年にわたる調査では、セミの発生が多い年と少ない年が交互に繰り返されるということが観察されています¹⁾。札幌市ではセミの発生量はどのように変動しているのでしょうか？その変動は猛暑や冷夏と言った気象条件と関係があるのでしょうか？もう少し多くの場所で同じような調査を継続してみる必要がありますそうです。2008 年は非常に少ない、2009 年は多い、2010 年は少ない…。さて、来年はセミが多い年になるのでしょうか？（TK）

1) 沼田英治・初宿成彦（2007）都会にすむセミたち—温暖化の影響?—. 海游舎。



札幌市博物館活動センター

〒060-0001
札幌市中央区北 1 条西 9 丁目
リンクエジプラザ内 5 階
TEL 011-200-5002
FAX 011-200-5003
<http://www.city.sapporo.jp/museum/>

編集後記

最近、木の枝に“セミが産卵した痕跡”らしきものを見つけました。枝の中の卵を見ただけではまだ断定できませんが、札幌市セミ調査ではまだ“ぬけがら”が見つかっていない“あるセミ”的なものだと予想しています。もしかしたらそのセミの羽化や“ぬけがら”が見られるかもしれないでの、来年の夏が待ち遠しいです。

ただいま、“ぬけがら”が見つかった環境や鳴き声のデータを集計して分析しています。今後は 2008 年から 2010 年までの 3 年間の調査結果をまとめていく予定です。（TK）